

6. 広報相談に関する取組

若年層や子育て世代を対象に、財務省や金融庁の施策を、予算編成シミュレーションのグループワークや生活に役立つマネー講座など、分かりやすい形で情報発信しています。

まちの将来を考える新たな財政教育プログラムを展開

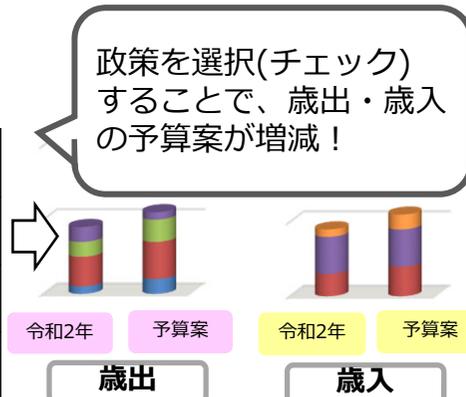
東北財務局は、地域の将来を担う生徒たちに主権者教育の一環として、財政教育を実施。自分が住んでいるまちの財政と持続可能なまちづくりを考える取組を支援。

概要

- 財務局では、若年層に日本の財政に関心を持ってもらうため、国の予算編成を疑似体験する授業「財政教育プログラム」を実施している。
- 東北財務局は、地域の将来を担う生徒たちにより財政を身近に感じてもらえるよう、同授業の内容を地方財政に置き換え、**持続可能なまちづくりを考える「地方財政教育プログラム」**を独自に考案。
- これを活用することで、生徒たちが「**国の財政**」「**市町村の財政**」「**人口減少問題**」を一体でシミュレーションすることができるようになった。

<シミュレーションのイメージ図>

項目	増減	政策 (お金の使い道)	金額
農林水産・ 商工業	3億円	✓ 中小企業支援(資金の融資など)	1億円
		✓ ドライブスルー市場の設置	2億円
		「道の駅」の建設	6億円



取組の成果

- 宮城県角田市立金津中学校の授業では、角田市の歳出・歳入のバランスや政策効果等をグループで議論。「角田市の新たな自主財源」を考え、授業後は模擬選挙等を行った。
- 生徒の意見を「未来の市長からの提言」としてまとめ、角田市長へ提出。今回の提言は、市の次期総合計画の策定に活用される予定。



グループワークの様子



角田市長に提言を渡す生徒たち

(参加した生徒の感想) 角田市がどのようにお金を使っていたか全く知らなかったので、とても勉強になった。**これからは住んでいる地域のためになることをしたい。**

(角田市長のコメント) 市民みんなで考えていくことが本当に大事。その点で今回皆さんが人任せではなく、**自分たちで考えたことに大きな意義がある。**

子育て世代向け広報のパパへの新たな取組

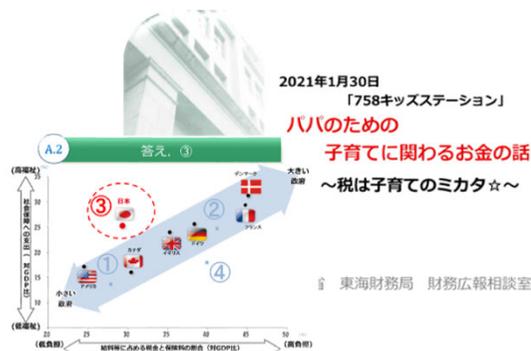
東海財務局は、財政を通じた社会保障や資産形成を考える講演を子育てパパ向けに初めて実施。子育て支援センターと連携し、新たな講演ニーズに対応。

概要

- 東海財務局は、平成28年度に子育て世代向け広報のプロジェクトチームを結成。様々な関係先への広報活動に継続的に取り組んでいる。
- 令和2年度は、以前から講演を行っている名古屋市子ども子育て支援センター「758キッズステーション」より、子育てパパ向けに、日本の財政状況やつみたてNISAについての講演依頼があり、オンラインで実施した。

<工夫した点>

- 子育てパパ向けに資料を一新**。従来は国の予算を家計簿に例える等親しみやすい内容で構成していたが、数値的に理解してもらえようグラフや数値を盛り込んだ。
- 初めての**オンライン**開催だったため、**チャット機能**やクイズを使い、一方通行の講演にならないよう、心掛けた。



取組の成果

<講演内容>

- テーマ：「パパのための子育てにかかわるお金の話」
- ✓ 国の財政と借金の残高
 - ✓ 消費税の使い道
 - ✓ ライフプランと資産形成
 - ✓ 分散投資・積立投資・長期投資の考え方
 - ✓ iDeCoとつみたてNISAの違い

- 講演では、消費税が子育て支援にも使われていることや、つみたてNISA、iDeCoにより税制優遇を受けながら積立投資ができることなどを説明。

■参加者の声

- ・説明がわかりやすく、資料がまとまっていた。
- ・つみたてNISAについて、勉強になった。始めてみようと思っている。



講演の様子

■今後の展望

今後も相手方のニーズに沿った講演を実施し、より多くの子育て世代の方に、国の財政・資産形成について考えるきっかけを提供していきたい。

国の財政を議論するディベート授業に協力

四国財務局は、香川大学教育学部附属高松中学校が実施する特別授業にアドバイザーとして参加。これまでの財政教育プログラムの提供に加え、学校側のニーズに応じ発展させてサポート。

概要

- 財務局が実施する出前授業「財政教育プログラム」の実績がある香川大学附属高松中学校が、財政に関する授業の一環として、未来の財政を創る「Fフォーラム」への協力を四国財務局に依頼。
- Fフォーラムとは、同校の先生が考案した独自の財政授業であり、座学・自学自習の後、「大きな政府派」、「小さな政府派」に分かれ、ディベートを行うもの。四国財務局は、アドバイザーとして議論に協力。

未来の財政を創る「Fフォーラム」

1. 大きな政府派と小さな政府派に分かれます。
2. 前半戦チームと後半戦チームに分かれます。
3. ディベートのルールにのって戦います。
4. 参観していたチームはディベート終了後、ジャッジします。
5. しかし、ジャッジだけではなく、誰かにディベートの内容を生かして、未来の財政をどう創ればいいのか、四国財務局の方と意見交流してもらいましょう。
6. 5を聞いたうえで、最終ジャッジを下します。

テーマ 社会保障：日本は高福祉高負担の国を目指すべきか
低福祉低負担の国を目指すべきか



※Fフォーラムの「F」とは「附属」「フューチャー」の2つの意味があり、先生と生徒が共同で考案。

<表現課題>

これまで大きな政府と小さな政府について学習し、自分の立場を決めてきました。それでは、未来の主権者として本当に、日本の財政がどうなってほしいと思いますか。「中学生が話し合ったところで社会は変わらないでしょ。」と思う人もいます。でもそうでもありません。社会は関係しあって少しずつ変わっていきます。今の中学生の想いを財務省四国財務局にぶつけてみましょう。財務省四国財務局の方と**未来の財政を創る「Fフォーラム」**を行います。**真剣勝負のディベートと高め合った提言**で未来の日本の財政に対して中学生がどう思っているのか伝えよう。

取組の成果

- 生徒たちは、財政教育プログラムで提供する基本的な知識をすでに座学で学習済。そのうえで、「大きな政府」と「小さな政府」のメリット・デメリットを自主学習したうえで、ディベートを実施。四国財務局はアドバイザーとして参加。



白熱した議論をする生徒たち

- ディベートでは、税の目的や使われ方について、ハンガリーの付加価値税率や国民健康製品税などを引き合いに出したり、身近な大人にアンケートを行って税の負担感を披露した生徒もいて、レベルの高い議論となった。
- 生徒からは「大人たちが今の財政をどのように考えているか知ることができた」、先生からは「(財務局職員から)大きな政府と小さな政府のどちらを選ぶかは将来のあなた方である、との言葉で臨場感が高まった」との声が聞かれた。